

鉄軌道輸送の安全にかかわる情報（平成 22 年度）

〔概 要 版〕

1. 運転事故

○平成22年度に発生した運転事故は、件数が872件で対前年度21件(2.5%)増、死亡者数が353人で同36人(11.4%)増でした。これらは、主に人身障害事故の増によるものです。(表1参照)

○自殺を直接原因とするものは運転事故に該当しませんが、一部に自殺かそうでないか判別できないものがあり、それが人身障害事故、踏切事故等とされていると見られます。

○乗客の死亡事故は、ありませんでした。

表 1：運転事故の件数及び死傷者数（平成 22 年度）

	件 数		死 亡 者 数		負 傷 者 数	
		対 前 年 度		対 前 年 度		対 前 年 度
列 車 事 故※ ¹	14 件	4 件(40.0%)増	1 人	1 人増	8 人	44 人(84.6%)減
踏 切 事 故※ ²	303 件	52 件(14.6%)減	118 人	7 人(5.6%)減	74 人	74 人(50.0%)減
踏切障害に伴う 列車事故※ ³	2 件	前年度と同数	1 人	1 人増	3 人	46 人(93.9%)減
道路障害事故	91 件	前年度と同数	1 人	前年度と同数	43 人	3 人(7.5%)増
人身障害事故	463 件	67 件(16.9%)増	234 人	43 人(22.5%)増	235 人	9 人(4.0%)増
物 損 事 故	3 件	2 件増				
合 計	872 件	21 件(2.5%)増	353 人	36 人(11.4%)増	357 人	60 人(14.4%)減

※1 「列車事故」は、列車衝突事故、列車脱線事故及び列車火災事故の総称です。

※2 「踏切事故」は、踏切障害に伴う列車事故と踏切障害事故の総称です。

※3 「踏切障害に伴う列車事故」の件数等は、踏切事故の内数であり、列車事故にも重複して計上されています。
合計の件数等は、この重複を除いたものです。

図 1：運転事故の種類別の件数及び死傷者数（平成 22 年度）

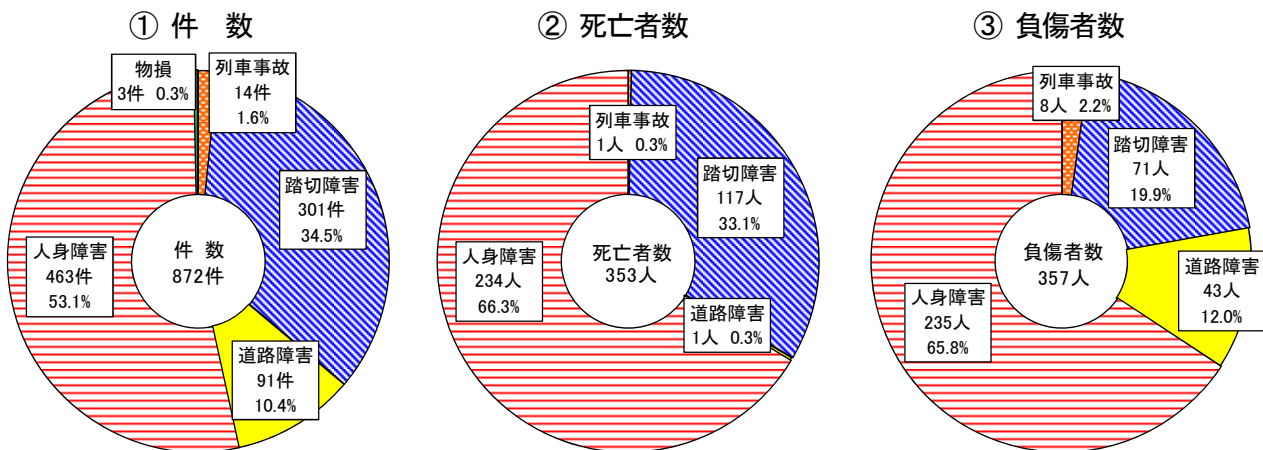
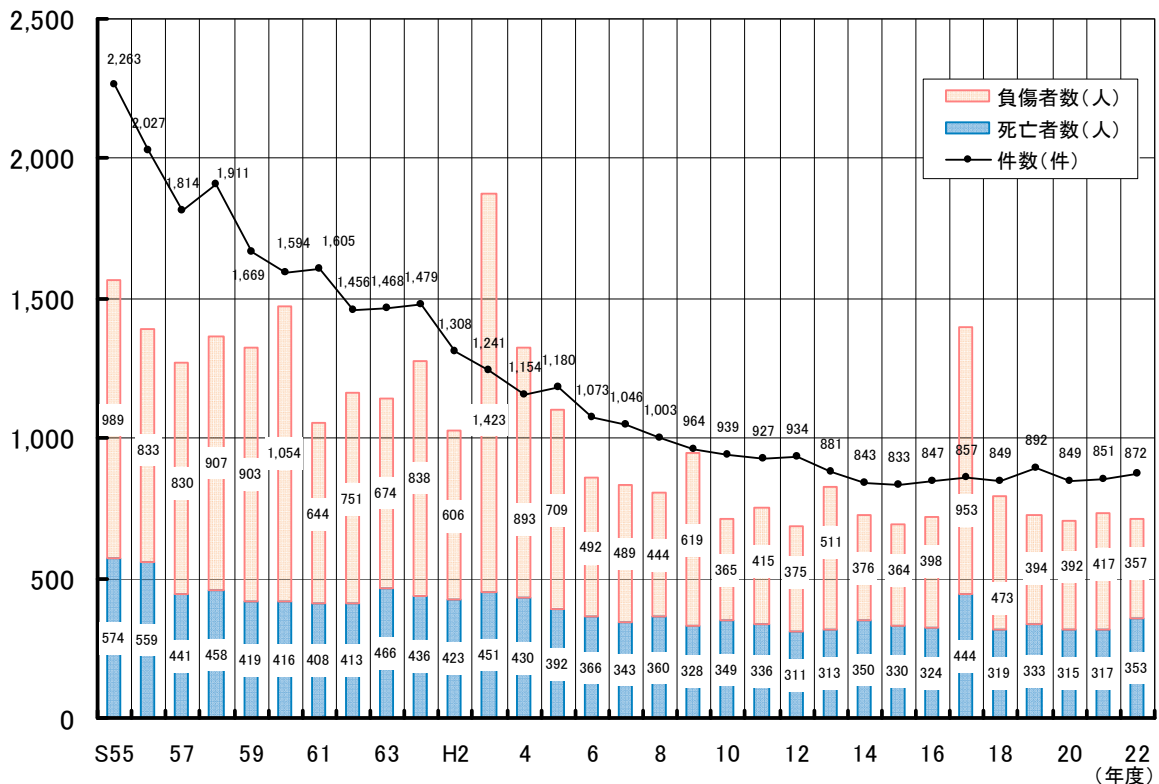


図 2：運転事故の件数及び死傷者数の推移



2. 踏切事故

○平成22年度に発生した踏切事故は、件数が303件で対前年度52件(14.6%)減、死亡者数が118人で同7人(5.6%)減でした。(表1参照)

○踏切事故は、立体交差化、遮断機・警報機及び障害物検知装置の整備等の安全対策の進捗により、長期的に減少傾向にあります。

○なお、列車事故14件のうち2件は踏切事故であり、また列車事故による全死亡者1人も踏切事故によるものです。(表1参照)

3. 人身障害事故

○平成22年度に発生した人身障害事故は、件数が463件で対前年67件(16.9%)増、死亡者数が234人で43人(22.5%)増でした。(表1参照)

○「ホームから転落して接触」と「ホーム上で接触」は合わせて224件で対前年度31件(16.1%)増、死亡者数が42人で同6人(16.7%)増でした。このうち、酔客に係るものは138件(61.6%)で同28件(25.5%)増でした。ホームの安全対策が重要性を増しています。(図4参照)

○ホーム付近以外の「線路内に立ち入って接触」については、件数が228件で対前年度45件(24.6%)増、死亡者が189人で同39人(26.0%)増となっていますが、自殺かそうでないか判別できないまま人身障害事故とされているものを多く含んでいると見られます。(図4参照)

図3：人身障害事故の原因等別の件数及び死傷者数（平成22年度）

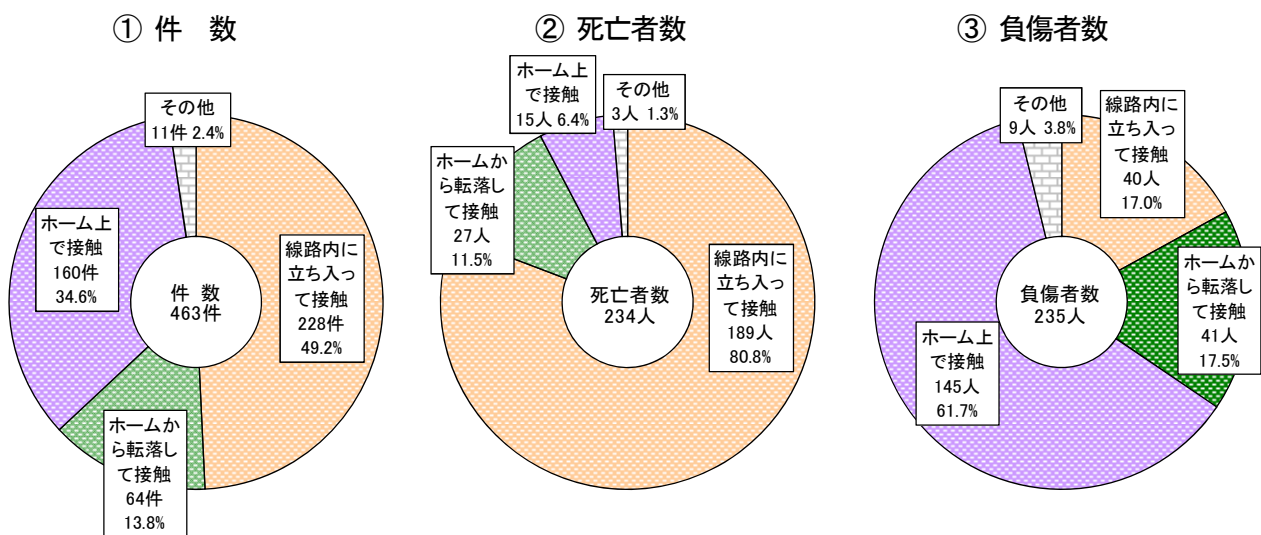
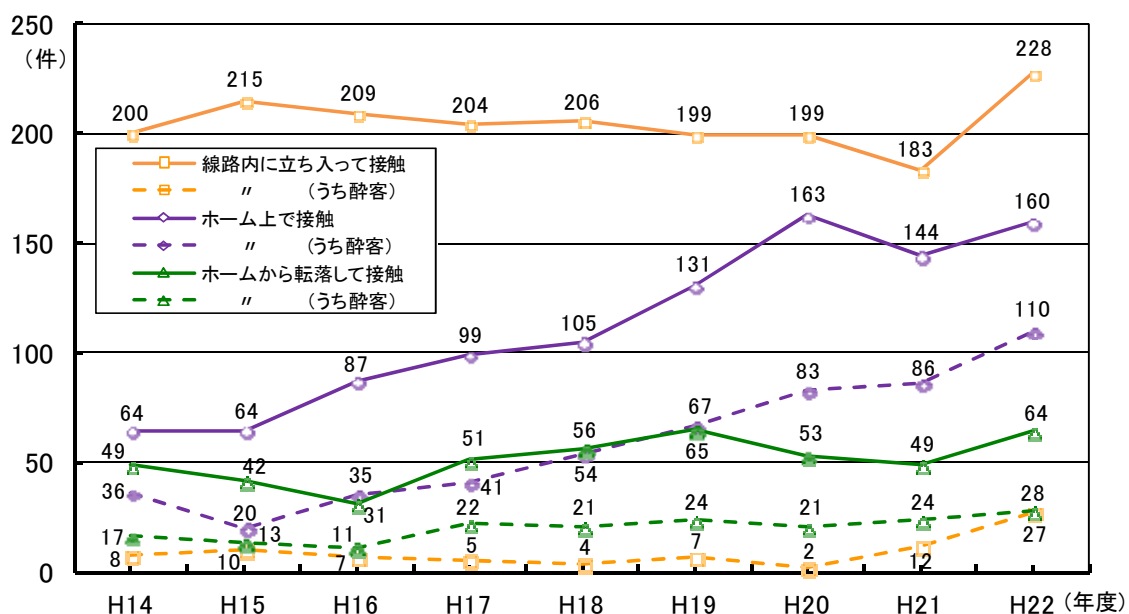


図4：ホーム等における人身障害事故件数の推移



4. 輸送障害

○平成22年度に発生した輸送障害は4,919件で対前年度765件(18.4%)増でした。(図5参照)

○このうち、降雨等の水害が466件で対前年度160件(52.3%)増、雪害が327件で同114件(53.5%)増、地震が162件で同125件(337.8%)増など、自然災害によるものが著しく増加しました。

○また、動物によるものが335件で対前年度111件(49.6%)増など、線路内立入り等によるものが増加しました。

○一方、線路内立入り等による輸送障害のうち、自殺によるものは623件で対前年度59件(8.7%)減でした。自殺による輸送障害は減少しましたが、1. に記述したように自殺かそうでないか判別できないまま人身障害事故等とされているものがあると見られます。

図5：輸送障害件数の推移

